

JAL×ヤマハ Sound UD 化プロジェクト

「おもてなしガイド」を活用し、空港内アナウンスの翻訳情報をお手元のスマートフォンに文字で表示します

～6月22日から日本語、英語、中国語の3カ国語で実証実験をスタート～

日本航空株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:植木義晴、以下「JAL」)とヤマハ株式会社(本社:静岡県浜松市、代表取締役社長:中田卓也、以下「ヤマハ」)は、ヤマハが提供する日本語のアナウンス内容を翻訳する「おもてなしガイド」(*)アプリを活用した実証実験を、2015年6月22日(月)から9月30日(水)までJAL国内線搭乗口にて実施します。

(*)「おもてなしガイド」アプリ概要:日本語のアナウンス音声の翻訳情報・文字情報をお手持ちのスマートフォンからリアルタイムで確認できるアプリケーション
・対応環境:iOS 7.0以降対応(iOS版はApp Storeから無償ダウンロード可能)

「おもてなしガイド」をお手持ちのスマートフォンからダウンロードいただくと、インターネットやWi-Fiに接続することなく、JAL係員が肉声で実施しているアナウンス内容を文字情報としてご確認いただけます。実証実験では、お客さまのニーズの把握やアプリの機能性などの検証を行います。

JALとヤマハは、今回の実証実験を通して、「おもてなしガイド」のさらなる機能追加やお客さまの利便性向上を図り、「音のユニバーサルデザイン化」を推進することで、すべての人にとってやさしい社会づくりにチャレンジしていきます。

「JAL×ヤマハ Sound UD 化プロジェクト」実証実験概要

- 期間 : 2015年6月22日(月)～9月30日(水)
- 対象便 : 2015年6月22日(月)～7月17日(金)
JAL221便、JAL229便(羽田発関西行き搭乗ゲート)
※7月18日(土)以降の対象便は別途設定します
- 対象言語 : 日本語、英語、中国語

Embrace new
Challenges **JAL**
いつも心に、チャレンジを。



「おもてなしガイド」アプリ
(イメージ)



実証実験 実施イメージ

「Sound UD 化プロジェクト」とは

ヤマハは、「おもてなしガイド」を多くの企業や自治体などと協力して普及させる「Sound UD 化プロジェクト」に取り組んでいます。「おもてなしガイド」アプリがひとつあれば、さまざまな施設や交通機関のどこへ行っても、音のユニバーサルデザインのサービスを受けられる、外国人観光客や高齢者、聴覚障がい者にも優しい社会の実現を目指しています。航空会社として初めて JAL と「おもてなしガイド」の実証実験を行うことで、サービスの本格化に向けた取り組みをさらに強化していきます。

「おもてなしガイド」とは

交通機関や商業施設、公共施設、観光地など、街中にはさまざまなアナウンスやナレーションなどの音声情報が流れています。

増加する訪日外国人観光客へ、こうした日本語音声情報をいかに効果的に伝えていくのかが大きな課題となっています。また、日本の高齢者や聴覚障がい者の方が暮らしやすい社会を目指すうえでも、音声情報の内容をわかりやすい形で伝えていくことは重要です。

しかし、インバウンド・バリアフリー施策として、何カ国語ものアナウンスを連続して流したり、映像ディスプレイなどで字幕表示することだけでは、時間や費用、スペース上の制約から難しい場合もあつたり、日本人健常者の利便性を低下させてしまう恐れもあります。

「おもてなしガイド」を導入すると、日本語のアナウンスなどを流すだけで、多言語化された情報や文字情報を、ユーザーのスマートフォンに提供することができるようになります。



「おもてなしガイド」ウェブサイト：<http://omotenashiguide.jp/>

- * 「おもてなしガイド」は、ヤマハ株式会社の商標です。
- * 「おもてなしガイド」は、対応言語数に制限はなく、何カ国語でも対応できますが、今回の実証実験は日本語、英語、中国語で行います。
- * Apple および App Store は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。
- * そのほかの文中の商品名、社名などは当社や各社の商標または登録商標です。